鳥の劇場の2025年度活動テーマ

「リニューアル3年目 できたぞ新施設！ 観劇・表現・出会い＝ともに楽しむ場へ！」

2025年度の主な活動

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2026年1月 2月 3月

●アネックス竣工式

●トリジュク（前半）

●本気のきもだめし

●鳥の演劇祭18 +BeSeTo演劇祭29

●トリジュク（後半）

●新作公演『十二夜』

●おとなな劇場発表公演

●県内巡回公演『アナンシと5』

●春公演『イワンのばか』

●スコットランド新作リハーサル

●利賀公演『熊野』

●演劇塾

●じゆう劇場長編公演

●小鳥の学校発表公演

●演劇クラブ

今年度の事業 Pick UP!

演劇クラブ

通年　木・土曜日

2025年度から新たに「演劇クラブ」がスタートします。対象は小学6年生から18歳まで。プロの俳優に演技を教わったり、劇場公演や演劇祭の運営に関わったり、自分たちで企画を立てて活動する機会もあります。海外のアーティストや舞台スタッフなど鳥の劇場に出入りするいろんなプロたちから学べることも、ここならではの魅力です。

活動日：基本的に週2回
木曜日16～18時　土曜日10～12時
夏休み期間など変更や追加あり。
参加費：毎月1,000円

スコットランド新作リハーサル

2025年7月26日（土）～8月9日（土）（予定）

2023年、2024年と鳥の演劇祭にスコットランド（イギリス）から招待した『村と道』、ご記憶の方も多いと思います。世界のさまざまな地域の人口減少をテーマに、美しい詩の言葉と生演奏で人生の美しさやはかなさを語り、多くの観客の心をつかんだ上演でした。そのチームといっしょに、新作を共同製作することになりました。台本は『村と道』と同様に詩人のトム・ポータルで、タイトルは『シャッターストリート』。中島諒人が演出で、鳥の劇場からは中川玲奈、小菅紘史、安田茉耶の3人の俳優が出演。音楽はもちろんガロウェイ・アグリーメントです。今年は2週間スコットランドに滞在し立ち上げのリハーサル、その後もろもろの調整を行い、2026年に仕上げて、スコットランド・鳥取で上演します。

鳥の演劇祭18+BeSeTo演劇祭29

2025年9月20日（土）～10月13日（月・祝）

日本、中国、韓国の演劇人がそれぞれの国の優れた作品を持ち寄り、観客との交流、演劇人同士の交流を図るのがベセト演劇祭。現在は鳥の劇場の中島諒人が日本委員会の代表を務めており、鳥取が開催地となっています。前回開催は2019年で、2022年に次の開催となるはずだったのですが、コロナによる中止をはさみやっと再び鳥取での開催となりました。鳥の劇場だけでなく米子市公会堂（米子市）、鳥取県立美術館（倉吉市）、とりぎん文化会館（鳥取市）でも上演を行います。毎年開催の鳥の演劇祭も併催で、例年の3週末ではなく、4週末の開催を予定しています。

劇場空間体験事業

鳥取市の小学校の子どもたちが鳥の劇場に来てお芝居を観て、その後に演劇ワークショップを体験するのがこの事業です。学校の体育館などでの観劇もいいのですが、やはり劇場での体験は特別です。日常とは全く違う場所で、まずお芝居でワクワクし、その後に出演の俳優たちと演劇のゲームなどを楽しみ、新しい自分、新しいクラスメイトの姿を発見し、表現する喜びに出会うのです。鳥取市による補助事業で、希望する学校を対象に実施しているものです。

企業向け研修

一般のビジネスマンの方を対象とした演劇を使ったワークショップです。研修の大目標は、ビジネスの現場でも日常的に行われるグループワークをもっと創造的な活動とすること。そのためのコツや、「やれる」「おもしろい」という手応えを感じてもらいます。研修開始の時には、「え！ 演劇なんてやらされるの？」と内心かなり後ろ向きだった参加者のみなさんが、あっという間に前向きになり、いきいきと表現に挑戦してくれます。

新作公演『十二夜』

2026年2月11日（水）～3月1日（日）

鳥の劇場としては、実は初めてのシェイクスピア作品上演です。シェイクスピアというと、高尚で難解というイメージを多くの人がお持ちではないでしょうか。けれど『十二夜』は恋愛を軸に展開する喜劇＝ラブコメなのです。そのにぎやかさやコミカルさは、誰もが楽しめるものです。楽しさだけではありません。言葉遊びの面白さ、恋の思いの詩的な美しさ、ユニークな登場人物の滑稽さ、地位に憧れる人の悲かしさなど、実に多彩な魅力にあふれています。魂の自由の象徴とも言える恋愛を通じて、真の自己の獲得という普遍的主題を描く作品です。

演劇塾

2025年11月実施予定

今年度で3回目となります。プロを目指す、またはすでにプロとして活動しているが自分の技能をさらに磨きたい、30代までの演出家または俳優を対象としています。昨年度は5名の参加があり、三島由紀夫「道成寺」を素材として、読解、読み合わせ、台本を持っての立ち稽古などを5日間で行いました。実に濃厚で創造的な時間となり、たいへん好評でした。今年は11月に開催予定で、6月から参加者の募集を開始する予定です。

2025年 サポーター寄付のお願い

おかげさまで、サポーターご寄付2024年は、243名の方から856口（4,280,000円）を賜りました。活動費や新施設のために大切に使わせていただきます。本当にありがとうございました。みなさまの変わらぬご支援に深く感謝し、ご寄付いただいたお気持ちに応えるべく、さらに多くの方に親しまれる劇場に成長させていきたいと思います。

2025年サポーター寄付制度について
【特助金】一口5,000円から、複数口も歓迎です。
【特　典】実績報告書の送付、活動報告会（翌年度初め）への参加
【期　間】2025年1月1日から2025年12月31日まで

【お申し込み方法】
サポーター寄付には4つの方法がございます。入金確認後、会員証をご送付いたします。振替手数料はご負担ください。

1 郵便局窓口でご入金
郵便局指定用紙に、お名前、ご住所、お電話番号、お持ちでしたらメールアドレスをご記入ください。
【郵便振替口座 01300-1-58939
特定非営利活動法人鳥の劇場】

2 直接現金でご入金
鳥の劇場にてうけたまわります。

3 銀行振込、インターネットバンキングでご入金
下記の銀行口座があります。名義はどれも「特定非営利活動法人鳥の劇場」です。お名前、電話番号を必ずご入力ください。
【ゆうちょ銀行 139（イチサンキュウ）支店 当座預金 0058939】
【みずほ銀行 鳥取支店 普通預金 1718266】
【鳥取銀行 本店営業部 普通預金 0269652】
【山陰合同銀行 鳥取営業部 普通預金 3894187】
【鳥取信用金庫 本店営業部 普通預金 0322825】

4 クレジットカードでご入金
鳥の劇場ウェブサイト「サポートしたい」のページ」よりお申込みを受け付けております。スマートフォンの方はイのQRコードからページをご確認いただけます。

【お問合せ】鳥の劇場（担当：高橋・中川）
〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1
TEL・FAX（0857）84-3268
E-mail info@birdtheatre.org

上演をもっと多くの方に楽しんでいただくために

公演日は無料送迎します
JR鳥取駅・鳥大前駅・浜村駅と鳥の劇場を結ぶ送迎バスを運行します。無料で、どなたでもご利用いただけます。
※バスに定員があります。乗車人数を把握するため、事前予約をお願いいたします。
※バスの時刻表は、ウェブ上の各プログラムの案内ページでご確認ください。

新しいカフェができました
上演の前後に、おいしいドリンクや軽食をお楽しみください。

バリアフリーをめざします
障がいのある方にご観ていただけるよう、通訳対応しております。ご連絡ください。

字幕あります
セリフが聞こえづらい方のために、手に持てる小さい"字幕"をご用意しております。

English subtitles available
セリフの英語訳を自動的に表示するiPodをご用意しています。
Programmes are available with English subtitles which automatically appear on the iPod screen.

鳥の劇場へのアクセス

鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1　電話0857-84-3268

■JRを使って
劇場の最寄り駅はJR浜村駅です。
※公演日は浜村駅と劇場の間を、車で送迎いたします（無料、要予約）。

□浜村駅まで
・鳥取駅から、山陰本線、米子方面行き30分
・倉吉駅から、山陰本線、鳥取方面行き25分
・米子駅から、山陰本線、鳥取方面行き29時
□浜村駅から　・車で15分

■車を使って
・山陰道 鳥取西道路、浜村鹿野温泉IC・瑞穂宝木ICから約10分
・鳥取空港から約30分
・鳥取市中心部から約30 分
・倉吉市中心部から約40分
・米子市中心部から約1時間20分
・境港市中心部から約1 時間45 分

□東京　飛行機 約1時間15分（羽田空港～鳥取空港）
　JR 約5時間30分（東京駅～鳥取駅）
□京都　JR 約3時間（京都駅～鳥取駅）
　車 約3時間（中国自動車道～鳥取自動車道）
□大阪　JR 約2時間30分（新大阪駅～鳥取駅）
　車 約2時間30分（名神高速道路～中国自動車道～鳥取自動車道）
□岡山　JR 約2時間45分（岡山駅～鳥取駅）
　車 約2時間45分（岡山IC～鳥取自動車道）

※ご宿泊について
□山紫苑
0857-84-2211
www.sanshien.jp
□お宿夢座
0857-84-2411
www.yumezika.co.jp
□旅風庵
0857-82-0531
www.ryofuan.com
□浜村温泉 魚太屋
0857-82-2000
www.oyado-ototoya.jp/hamamura/

大阪・神戸・広島・姫路の各都市と鳥取の間で高速バスが運行しています。

道路案内標識が2ヶ所に設置されています。

浜村
下車駅
下車
八東ホンジャル
鳥取
JR鳥取駅
ローソン
ローソンポプラ
浜村郵便局前
JR浜村
鳥取駅北口
鳥取駅北IC
鳥取市国道八百屋のバーン(C)
山陰道 鳥取西道路
鳥取西IC
ガンバ大阪スタジアム
ローソン
山陰本線
鳥取市
鳥取砂丘
鳥取砂丘
鳥取砂丘

アネックス建設の経緯と今後

2006年以来の活動継続の中、作業場や倉庫として借りていた旧鹿野小学校舎の老朽化が著しく、対応策を地域、行政の皆さんと検討する中、校舎を取り壊し、その跡地に鳥の劇場所有の建物を作るしかないということでまとまました。地元鹿野町の地域振興会議、地元住民の皆さんの理解を得、鳥取市、鳥取県の支援により、劇場を中心とした地域活性化事業として国のデジタル田園都市国家構想の交付金事業に採択されました。今和5年度から7年度の三ヵ年事業として、5年度に古い校舎の解体と新施設の設計、設計はアトリエ・ワンにお願いしました。そして6年度に今回の新施設建設が進められました。事業最終年度となる7年度はグラウンドの駐車場化、芝生化、野外舞台の設置、残った旧校舎解体などが進められます。

アネックスについて、劇団員に聞きました！

【木工作業室】

この広い、天井が高い部屋はなんですか？

小菅：ここは劇で使用する大道具を作る部屋です。一面に窓があるので日当たりがよく、作業で疲っていても明るい気分になります。電灯をつけなくても、日中は十分作業ができる明るさですよ。

作業がはかどりますね。

小菅：ええ。しかし、塗装室と工作室を隔てる建具の背が少し低いですね。一面ガラス窓だから、いつか誰かが作業中に割る可能性も…

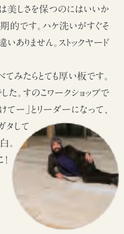
あ、あの小菅さん、メリットも教えてください…。

小菅：メリットは作業スペースが広いところです！ 押しノコが使いやすいですし、工具を入れる棚も充実しています。木造なので木目好きにはたまらない空間です。特別大きな換気システムのおかげでホコリが舞いにくいのも良いです。必要に応じて改造していく余地があるのも木造ならではのメリットですね。

赤羽さんはどうですか？この作業室。

赤羽：美しいガラス窓だから汚さないようにと清潔に使っていかなければいけませんね。前のタタキ場はやや汚れがちだったけれど、ガラス張りの見られている緊張感は美しさを保つのにはいいかもしれません。それと、塗装室が別室になり、水場ができたのは画期的です。ハケ洗いがすぐそこでできるのは、昔からの夢でした。スリの作業もはかどることに間違いありません。ストックヤードも広く、資材も納めやすいです。

小菅：テラスの「すのこ」に使っている板は、お家のお風呂のすのこと比べてみたらとても厚い板です。作業の主な担当は僕でしたが、とても安心感のある組み心地でした。すのこワークショップでは、親子の方が来られました。始さんが「こっちだよー」「気をつけてー」とリーダーになって、釘を配ったり、声をかけたりして進めてくれました。（ちょっとガタガタしているけれどもそこは）DIYの味が出ていますよ。色はスモーキーな白。天気のいい日はカフェで買ったコーヒーを飲みながら、日向ぼっこ！ 柱の周りの細かな細工にも注目してください！



【衣装作業室】

安田さん、ここは何をする部屋ですか？

安田：劇で使う衣装作業室です。ここで型紙を製図したり、生地を裁断したり、縫製したり、アイロンをかけたりします。衣装製作以外にもワークショップなど多目的に使えます。

旧校舎の衣装作業室も見せてもらったこともありますが、今回随分明るい作業室になりましたね。

安田：そうですね。壁一面がガラスなので、外から作業風景を見てもらえます。これを見てください。はら、音楽室の黒板があるんですよ。旧校舎でも音楽室で衣装製作をしていたので、またこの黒板が使えるのは嬉しいです。ここにデザイン画や作業進行表を貼る予定です。衣装を作るのは作業量が多く、いつもギリギリまで作っているので、皆さん見にきてください。

【ストックヤード（小道具・衣装）】

齊藤さん、とんでもない量の衣装と小道具ですね！

齊藤：鳥の劇場では作品の再演を視野に入れ、使用した大道具や小道具、衣装を保管しています。実際には使用していないけど、これから役立ちそうな物もストックしていますよ。古いものはそのものが持っている味を出すのが難しいですから貴重です。ご家庭で不要になった着物などの衣類や食器などをいただくこともあって、量がものすごいことに！

これ、どこに何があるか、わかるのでしょうか？

齊藤：ええ、誰でも簡単に探せるように、膨大な種類と量のものを見やすく分かりやすく並べることが重要になってきます。衣装はタグを付け、種類ごとに管理、小道具の方はタグ付けはしていませんが、種類ごとに管理しています。

安田：衣装部屋は6回目の引っ越しです。その度に使いやすさにこだわって収納してきました。今回の衣装部屋はその集大成です！

圧巻です。この量はすごい。

齊藤：「ちょっと出し物したいんだけど、衣装とか小道具ないかなあ？」という方、貸し出しも可能ですので、お気軽にご相談ください。

【丸太組】

梁や柱も素敵ですね。

中島：美しいでしょ。鹿野産の杉丸太を20本以上使っています。伊勢神宮でも仕事をされた宮大工の方が、墨付けからやってくれました。工場でプレカットされた材料を組み合わせて作る一般的な建て方とは全く違う技術が、丸太組には要求されるので、やれる大工さんがかなり限られるようです。構造設計を担当された方も木組の見事さに感動されていました。

【プラットフォーム】

鳥の劇場の幼稚園側から、砂のグラウンドを通らずに新施設側に行くことができるプラットフォーム。ただの通路というわけではなさそうですが…

松下：まず道が広い！ 完成するまでに私が思っていたよりも広い道でした。いろんなワークショップをしたり、カフェのテラス席を出したり、何か上演しても良いかもしれませんね。

面白そうですね。ただただのんびりするだけでも良さそう。

松下：暖かい日にお昼寝したいな。走り回って踊りたいな。お昼ご飯を持ってきてここで食べてもいいな。と、いろいろ過ごし方を考えると楽しくなります。雨の日や雪の積もっている時にプラットフォームを歩くと、水族館のペンギンの気分になれて楽しいですよ。

【楽屋】

観客は楽屋を見る機会がなかなかないですが、以前の楽屋はどんなふうだったのでしょうか？

高橋：前の楽屋は元々体育館の用具入れだったところでした。六畳くらいで、多い時はそこに10人位たまっていました。男女の敷居は黒のパネル3枚。そこのあかりは蛍光灯1本。暗いからメイクのムラがよくわからない。舞台裏との敷居は黒い幕1枚。だから雑談がつつぬけ。激しい演技のあとのクーラーの風はとどかない。冬はとても寒い。ファンヒーター灯1つあればましだが外から風がビュービューと入ってきていました。最悪の楽屋でしたけど、とても好きでした。揺られもしましたが好きでした…。（思い出に浸っているのか遠くを見ている高橋さん）

楽屋ってそれだけ思い入れがある場所なのですね、新しい楽屋の印象はどうでしょうか？

高橋：（ハッとして）あ、ああ。広くて白い！新楽屋！という感じです！ エアコンが男部屋女部屋一台ずつあって、洗面台も一台ずつあって、全身鏡も一台ずつあって、化粧台の鏡のまわりにはキラキラLED。とても快適です。新楽屋にもいい思い出がつくれればいいなあ。

【籾殻（もみがら）断熱】

新施設の壁と床に籾殻を使った断熱材を敷き詰めるワークショップを行ったということですが。

由井：籾殻断熱の準備として、竹割り作業を10月23日に行いました。吉岡温泉から竹をいただき、ボランティアさんと一緒に必要なサイズを切り出していきました。劇団員たちは、割るのが意外と楽しくて没頭していましたよ。割った竹はホワイエに場所を作って紐でつるして、12月の作業本番まで乾燥させました。そして本番となる籾殻断熱材づくりを、12月10日から12日に行いました。籾殻は鹿野の米農家白川大介さんのご協力で集めました。

籾殻断熱材は新施設のどこに使われているのでしょうか？

由井：作業した場所は、新施設のカフェと多目的トイレの壁です。多目的トイレに入ると、籾殻がつまった壁の中が見られますよ。

本当だ！こうやってみんなで作った成果が見えるのも面白いですね。

由井：アトリエ・ワンの塚本さんと、担当の渡邊さん、東京科学大学の環境・社会理工学院塚本研究室のみなさんが東京からきてくださったり、ボランティアの方にも参加していただきはかどりました。

【鳥のカフェ】

すごい！ちゃんとカフェですね（笑）ここまでおしゃれなカフェになっているとは。

後藤：今まで旧幼稚園エリアのキッチンや、ホワイエにリサーカーの屋台をひろげて営業していた鳥のカフェが新施設に引っ越しました。中に入ると木材の温かみのある空間にかわいいカウンターがあります。実は、カフェにも旧校舎から引き継いだ材などが使われています。カウンターの人造大理石は校長室にあったものです。

後藤さん的に、ここに注目してほしいというところは？

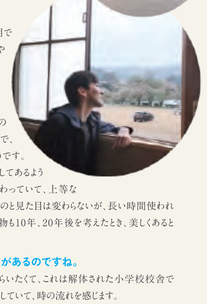
後藤：2階のカウンター席に座ると、お堀の景色が広がります。ここは後藤イチオシの席なので、ぜひ座ってみてください。特に右端の席がおすすめです。ここからお花見できます！

いいですね！ このカフェは公演時だけのオープンですか？

後藤：今までは公演ごとの営業でしたが、6月からは公演にかかわらず、金土日の毎週末営業を目指しています。4、5月は公演や行事に合わせてプレオープンしました。地元鹿野の美味しい食材や、鳥のゆうき農場で取れた野菜を使った“発酵”をメインにした料理、里山の恵の野草や蕎麦、ハーブなどを利用したブレンドティーなど、体にやさしいごはんの時間を提供いたします。また、ワークショップの開催など、開かれたスペースとしても活用予定です。ぜひ「場所」としての鳥のカフェに出会いに来てください。

【たたみの部屋】

カフェの階段を上がって、こちらは？えっ？和室ですか？



大田：はい。襖で真ん中を仕切ると2部屋の和室として使用できます。具合の悪い方が休憩をしたり、客演の俳優や外部スタッフの人が泊まることもできます。

新しい畳はいぐさのいい香りがします♪ やっぱり和室って落ち着きますね。

大田：ですよね。工務店の方に聞いたところ、アトリエ・ワンの塚本さんが古くからの製法の畳を使いたいということで、青谷にある老舗の畳屋さんに作っていただけたそうです。中の断熱材を藁でサンドイッチして歩き心地を追求してあるようです。クッション性を味わってください。畳表にもこだわっていて、上等ないぐさを使ってあります。工務店の方が、「一般的なものと見た目は変わらないが、長い時間使われてからがベストになっていくといいなと思っている。建物も10年、20年後を考えたとき、美しくあるといいという思いが常にある」とおっしゃっていました。

なるほど。畳一つとってみても先を見越したこだわりがあるのですね。

大田：天井が高いのもポイントです。ここの窓にも注目してもらいたくて、これは解体された小学校校舎で使われていた窓なんです。塗装が少し剥がれていたりしていて、時の流れを感じます。

【鳥のゆうき農場】

松下：あれ、見えます？

んん？なんでしょう？畑ですか？

松下：そうです。ちょっと行ってみましょうか。

山陰三ッ星マーケットと鳥取市との事業で始まった「鳥のゆうき農場」という取り組みは、耕作放棄地（昔は畑をやっていたけれど、今は草が伸び放題の場所）をなんとかしようということで始まりました。今年で2年目です。1年目は、最初の植え付けを地域の方を含めてみんなで行ったのですが、その後はなかなか人が来ず、世話をする自分たちと農家の方だけが訪れるような状況でした。今年はいろんな人が来てくれるよう、市民農場のような貸し出しを行います。農薬や化学肥料をなるべく使わずに育てることにもこだわりがあり、太陽や水など自然の力で育つ「植物のそのままの強さ」を大切にしています。お花を植えたり、畑の形（区画の区切り方）を工夫したりして、楽しい雰囲気になるようにしました。畑を通じて、未知のものとの出会いや、生き物・植物など自然について知っていく学びの楽しさを体感してもらいたいと思っています。そのために、さまざまなイベントも企画しています。

【サルベージ】

新施設なのに、至る所で懐かしい感じがしますね。

中島：解体される建物等から部材を再利用することをサルベージと呼ぶようですが、解体された古い校舎から多くの部材や家具がサルベージされました。地域の人にも愛される建物ということがコンセプトの一つでしたので、校舎の記憶を引き継ぐという意味で、設計の塚本さんが校舎を歩き回り、「これを活かす！」という指定をし、大工さんが解体前に引っ張り出してくれました。

なるほど懐かしい感じがする正体はそれでしたか。どのようなものを使っているのでしょうか。

中島：まずこの分厚いラワン材です。階段横のルーバーのようなものとして厚さ6センチくらいの大量のラワン材があって塚本さんは大喜びでした。昔、私が子供の頃はラワンといえば安い木材の代表選手みたいなところがありましたが、今はインドネシア政府が輸出制限をしていて、とても高価だということです。

手すりになってるって別物のようですが、切り込みみたいになっているところに来歴が残されています。ラワン材は、他にも理科室の棚をはじめとするいろんな棚にも使われていたので、しっかり生かしました。亜麻仁油を塗ったら生き返った感じです。

再利用できるものがたくさんあったのですね。

中島：教室出入り口の引き戸もたくさん生かされています。もともとは淡い桃色だったのかなという感じですが、50年以上の経年変化でかなり汚れています。が、やはり昔のものはしっかり作られていて、戸としての機能はバッチリです。これから少し手を加えてきれいにする予定です。引き戸のレールは真鍮の無垢です。かっこいいですよね。

この階段もひょっとしてサルベージですか？

中島：そうです。階段の踏み板は松材です。前の用途も同様で、いったい何人の子供の体重を受け止めてきたのかと聞いてみたくなります。

確かに（笑）

中島：さすが強度・耐久性に優れた素材です。今もいい色ツヤです。階段の真ん中にペンキで引かれたセンターラインの跡も残っています。歴史を感じさせますよね。

この絵地図も旧小学校にあったものですね。

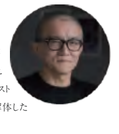
中島：ええ。この絵地図はちょっとユニークなものです。鳥取県全体と鹿野町周辺の鳥瞰図です。昭和の伊能忠敬とも呼ばれた神戸出身の画家・井沢元晴さん（1915～1990）による作品です。日本海側から見ているので南が上になっていて新鮮です。昭和30年代に描かれたものです。学校が依頼して描いてもらったのでしょうか、もはや誰にもわかりませんね、きっと。

中島：これ、何かわかりますか？

…わかりません。なんでしょう？

中島：歯ブラシとコップの整理棚です。廊下にありました。なんでもないものですが、可愛いです。通気の穴も空いています。衣装作業室に置きますが、ミシンの糸を整理するために使われます。

建物ができる中で考えたこと



片流れの屋根が真ん中で微妙に折れた伸びやかな外観が、既存の劇場・旧幼稚園舎と組み合わさって、鷲峰山の遠景のように見える。外観は杉の柔らかな表情とグレーのガルバリウムが上品なコントラストを見せて美しい。幅7mの道が劇場施設全体をつなぐ。内部には解体した旧校舎の木材や家具がいろいろに使われている。

アネックスの魅力はいろいろにあるのですが、目玉はなんといっても丸太組です。直径は太い部分で40センチ以上、20本以上の丸太を組み合わせることで、建物の骨格ができています。人間と建物、住まうという文明と自然の原初的な出会いの場に現れるのが丸太です。丸太の多くは製材されて決まった寸法の規格品となり、工業製品のように扱うことが可能になります。ところが丸太は違います。自然による生成物なので、同じものはありません。一本の丸太も場所によって太さ・形は異なります。だから図面に書いてあっても、それはおおまかな指示に過ぎず、一本一本の丸太をどこに配置し、どのように組み合わせるかは、出会いの偶然性を必然に変える作り手の技術や差配によって決まるのです。私は、今回の工事を見るまで、丸太組のその特殊性を全く知りませんでした。二つのことを考えました。

一つは、演劇に似ていると。塚本由晴さんを中心としたアトリエ・ワンの皆さんが知力、感性、経験を元に考え抜いた図面が台本で、丸太が俳優、工務店さん（竹田正博さんを中心とした株式会社ながおのみなさん）が演出チームです。演劇づくりにおいては台本の本質と、それぞれに固有の個性を持つ俳優をどのように出会わせるかが勝負です。台本（設計図）が内包している声と、俳優（丸太）に内在する声を聞き分けながら、価値の最大化を図るべく配役（丸太の配置や向き決め）、リハーサル（墨出し、接合）を演出チーム（工務店さん）が進めていくのです。天然の丸太の微妙な反りや表面の凸凹という偶然（予測不可能性）を、現場の創意工夫により構造の強さ、見た目の美しさに変えていく、それは台本（図面）の具体化にとどまらない創造的で動的な過程です。

もう一つ。使われた丸太は樹齢60年とか70年の地元鹿野産のものです。劇場とは何キロか離れていますが、同じ鹿野の土から生まれた杉です。私も山に入り、選別に立ち会いました。私たちは、2006年以来、演劇が大地に根ざしたものであることを目指して活動してきました。地球という大地、アジアという大地、日本という大地、鳥取という大地、鹿野という大地。あるいは現在という大地。大地の意味は文脈によって異なりますが、一部の演劇愛好家のためという狭い枠を超えて、人間について真剣に考え、真摯に批判し、人間を深く肯定し熱く謳える表現を生んでいこうと努めてきました。鹿野で育った木が丸太の形となって、私たちの劇場に新しい根を張り、見えない新しい枝葉を天に向け世界に向け伸ばしていく。グローカルな活動が鹿野の杉によって支えられているのです。

旧鹿野小学校の校章と鳥の劇場の足路マークを、カフェ横に並べて貼り付けました。この建物の成り立ちを象徴的に語っています。校章はかつてこの地域の領主であった亀井家の家紋です。四つの菱形が大きな菱形となって美しい調和をなしています。鳥の劇場の活動は、四つの力の組み合わせにより発展してきました。観客、地域、行政、そして鳥の劇場です。それが上手に組み合わさって、今回の新施設に結晶しました。『あるものを活かし、ないものをつくる』というのはベネッセの福武總一郎さんの名言ですが、この施設を活かし、演劇創作において、そしてコミュニティーの中の活動においても、『ないもの』をつくっていけたらと思います。　鳥の劇場代表理事　中島諒人

設計のアトリエ・ワン塚本さんより

コミュニティを勇気づける普請による建設

鳥の劇場の中島さんから、舞台衣装や小道具の保管、舞台装置や衣装を製作するワークショップとして使用してきた旧鹿野小学校の校舎が、耐震性に劣るために取り壊されることになった。代わりのものが必要になったが、そんな財政的蓄えは無因になった。何か知恵はないか、という相談に対し、アトリエ・ワンは「普請」方式を提案した。「普請」というのは、コミュニティで行う環境構築全般を指す言葉で、寺のお堂を浄財や材料や手を集めて建てることや、農村の約25世帯が結となって、各世帯の茅葺の屋根を毎年一棟つつ葺き替える茅普請、普で道を作る道普請などが例として挙げられる。しかし20世紀後半以降の社会の産業化は、建設を専門業者に発注し「請負」わせるものに変質させ、人々を建てる行為から遠ざけてきた。しかし、大道具、小道具、衣装、家具から照明まで自作してきた鳥の劇場なら、新しい施設「アネックス」も「普請」でできるのではないかと考えたのだ。このアイデアは鳥取の農村で、地域の人々を巻き込みながら現代演劇を実践してきた鳥の劇場の精神とも親和性があった。さっそくアトリエ・ワンが基本構想をまとめ、それを携えて鳥の劇場が資金調達に奔走。市と県も協力して内閣府のデジタル田園都市国家構想の補助事業に採択され、計画は具体化されることになった。

アネックスは楽屋を含めての、劇場の舞台裏にあるのが理想的であるため、旧校舎西半分の道具類を東半分に移動して先行解体することになった。ここに旧体育館である劇場の高い屋根から南側の山裾へと片流れ屋根を架け下ろしてアネックスのヴォリュームを位置付けたところ、北側の旧幼稚園の屋根とも合わせた新しいシルエットに。劇団と町の人々は地域の名峰、鷲峰山（鷲が翼を広げたような山容）の姿を読みより喜んでくれた。木造二階建てのアネックスの主たる柱梁は、鹿野町の森から伐採、乾燥させた杉丸太。米農家から譲り受けた籾殻を利用した籾殻消石灰断熱（カフェ壁部分）は参加者を募ったワークショップにより普請型で施行された。アネックスは基本、倉庫だが、その中にある木工、塗装、裁縫さらには調理（カフェ）の作業を校庭側に配置。今まで隠れていた公演準備期間の活動がショーウィンドウ越しに現れ、様々なスキルや道具を介したモノ作りの交流を期待した。工房群が店舗のように間口を向けるプラットフォーム（幅7m長さ70m）が、アネックス、劇場、旧幼稚園を繋いで旧校庭に向き合い、演劇祭のマーケットや野外劇、大道具の製作・搬入の舞台となる。また旧校舎からラワン無垢材の鴨居、階段の松板、実験室のテラゾーカウンター、収納棚、スチールサッシュ窓、教室入口の引き戸、ヤリガラスの障子、校章などがサルベージされ、アネックスに利用された。衣装棚、工具棚、作業台、プラットフォームのデッキは劇団員を中心に普請型で仕上げられた。

資金がないからというのではなく、コミュニティの因り事を解決し、その存在意義を再確認し、可能性を広げる建築をまず構想し、後から資金を集め建設にたどり着いた今回の道筋から、プロジェクトの関係者一同は大きな勇気をもらった。補助事業になった過程で準公共的性格が付与され、限定的にならたものの、「普請」のアイデアがコミュニティに、建築に勇気を与えたことは確かだといえよう。

建築家 塚本由晴（アトリエ・ワン）

鳥の劇場にゆかりのある方々から声を聞かせていただきました！

国内外の様々な劇場で仕事をしてきた目線で、演劇の施設として機能的なのはもちろんですが、開放的なのがいいですね、じっといい。地産の木材だからかなあ、すっかり鹿野の景観に馴染んだオープンエアーのテーマパークのよう。ここで、どんな関係を、どんな想いを、どんな未来を紡いでいくのか、ワクワクします。

阿部一徳
俳優

鳥の劇場＝Bird Theatreの中の「Theatre」は、日本語だと「劇場、劇団、演劇」などと訳しますが、英語ではこれら全てを意味します。鳥の劇場は、生きている演劇を見せてくれる場所であり、クリエイティブな集団でもあります。新施設「アネックス」を通じて、様々な創造過程が広くシェアされることを強く期待しています。

©HIROTA Saitta

西尾祥子
システマ/arts knot

私も、みんなでつくるワークショップに参加し、完成を楽しみにしていました。
新施設は色々な体験の場にもなるとのことで、例えば衣装のデザインや作り方の解説とか、小道具を一緒に作る体験をしてみたいです。劇場と観客とのつながりがもっと多様に、豊かになっていくことを期待しています。

伊藤輝子
教育機関所属

ぼくは、「鳥の劇場」の表現ワークショップや演劇祭に参加し演劇の楽しさを知ることができました。そんな「鳥の劇場」に新しく「アネックス」と言うしせつが出きました。「アネックス」には、「鳥のカフェ」があります。ぼくはえんしることも好きですがたべることも好きなので、「鳥のゆうき農場」の野菜を使ったカフェのランチを食べながら、野外劇場を観たら最高です。ぜひ足をお運びください。

山本結陽
鳥取市立鹿野学園
5年生

アネックスに入ると「新施設！」という新しい木のにおいがして安心感がありました。衣装ストックヤードは前よりも広くなっていて「どこに何があるのか」がとても分かりやすく、取りやすくなっていました。また、多目的室や楽屋部分など、練習もできるスペースがたくさんあってとても使いやすく楽しい場所だと思いました！
畳のお部屋が気になります！

永原志於里
米子市立福生中学校
2年生

新しい劇場が、文化と芸術の発信拠点として、鹿野地域の魅力をさらに高めることを祈念いたします。また学校と地域をつなぐ学びや交流の場として、そして多くの子どもたちの感性や創造力を育み、未来を切り拓く力と希望を創出する集いの場として、躍進されることを心よりお祈り申し上げます。

高藤淳子
鳥取市立鹿野学園

私は特に楽屋がお気に入りです。大人数で使えるところや大きい鏡があり、自分の演技をしっかりと確認できるところが良いなと思いました！ 衣装部屋はどこになにがあるのかが分かりやすくて出し入れや作業がやりやすかったです！
たくさん小道具を使っていたのですが、新施設に全部入れてもまだまだ入るくらい広いので、とても使いやすかったです！

松田奈々子
鳥取市立鹿野学園
8年生

舞台監督の私からは作業場についてです。校庭に向かったガラス窓、隣にはカフェ。こんな開放的な作業場は初めてです。雑然としがちなのですが人通りもできたのでこれはもっと整理整頓せねばとなります。道を尋ねられたことも・・・。興味のある方はぜひ作業中の様子もご覧ください。

中井尋央
（株）ステージワークURAK

舞台監督の私からは作業場についてです。校庭に向かったガラス窓、隣にはカフェ。こんな開放的な作業場は初めてです。雑然としがちなのですが人通りもできたのでこれはもっと整理整頓せねばとなります。道を尋ねられたことも・・・。興味のある方はぜひ作業中の様子もご覧ください。

中井尋央
（株）ステージワークURAK

鳥の劇場の新しい施設「アネックス」の完成おめでとうございます。読み聞かせグループさくらんぼにとって、こじか園の子どもたちと鳥の劇場の人達との交流は、とても魅力ある楽しみのひとつです。この新しい施設で何ができるだろうかと考えてもみましたが……。畳の部屋でのおはなし会はどうかな。外のテラスでは野菜のテラスでは野菜の販売会はどうか。何ともあれ鳥の劇場のご活躍とますますのご発展を祈念いたします。

足立雅子
読み聞かせグループさくらんぼ

昨年初めて参加したワークショップで、参加したリヴとと入利用者の内に秘めたエネルギーと、表現することの喜びに満ちた姿に感銘を受けました。障害の有無に関わらず、一人ひとりの個性が尊重され輝く。アネックスが、そんな素晴らしい活動を一層発展させる場となることを願っています。

大田 百子
就労継続支援B型事業所
リヴとと入

4月半ば、鳥の劇場の新しい施設にお邪魔しました。外から見ると「これが鹿野？」って思うくらいお洒落ですが、中に入ると木の香りがして、自然の素材がたっぷりで、なんかゆったりする感じ。また、地元民としては、窓枠やら、木材やら、所々に元の小学校の素材が使われているのも嬉しい発見。これからこの場所でどんなことがおこるのか、ワクワクしてます。

佐々木千代子
いんしゅう鹿野
まちづくり協議会

丸太をそのまま梁に使う建築は、最近ではあまり見かけなくなりました。今、木造建築が改めて注目され、大規模な施設でも木造が採用されていますが、ここで使われているような「丸太の梁」は、大工の手仕事ならではの存在感があります。学校で使われていたスチールサッシの再利用にも、効率性より地域の文化的資産を大切にする姿勢を感じます。

吉本光宏
文化コモンズ研究所 代表

鳥の劇場を取り上げていただいたコラム

スチールの窓や黒光りする階段踏板など、50年以上の歴史を経た小学校の痕跡が散りばめられた新施設には、懐かしい温もりがあります。大量の衣装や小道具でいっぱいのストックヤードは、活動20年を迎えようとする鳥の劇場の蓄積。鹿野と演劇の記憶が詰まったこの場所が、未来への想像と創造を培う工房として活躍することを期待しています。

五島朋子
鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

竣工式を4月26日（土）に開催しました！

晴天に恵まれ、初夏を思わせる陽気の中、地域内外から145名の方々に集まっていただき、にぎやかな式典となりました。劇場代表・中島諒人のあいさつで式が始まり、来賓のみなさん、関係者、地域のみなさんや子どもたちによる祝辞やごあいさつをいただきました。鳥の劇場からはお礼に代えてアメリカの詩人ロバート・フロストによる詩「ねむるみどきに来た二人の流れ者」の朗読を俳優が行い、最後は、司会の俳優・中川玲奈の「アネックスができました。みんなでもっともりあがる未来に向けて、鳥の劇場」という言葉の後、参加者全員で「出発進行！」と唱和し、紙吹雪が舞う中でアネックス完成による鳥の劇場の新たなスタートを祝うことができました。